



学校だより 11月

令和元年10月31日 横浜市立芹が谷南小学校

可能性の扉を開く

学校長 高木 篤子

一冊の本を手にしたことがきっかけとなり、興味をもって夢中になれることを見つけて、やがて自分の可能性を広げる扉へとつながる。読書の秋に、そのような本と出会えたら、素敵ですね。



リチウムイオン電池の原型を考案し、ノーベル化学賞を受賞した吉野彰さん。化学に興味をもったきっかけは、小学校3・4年生の担任の先生から、『ロウソクの科学』という本を薦められたこととインタビューでお話されていました。

この本は、1860年に科学者マイケル・ファラデーがロウソクを題材に演示実験しながら講演した内容を編集し、1861年に出版されたものです。ロウソクはなぜ燃えるか、炎の明るさや色など、燃焼時に起こる現象を解説していて、読み手を科学の世界にいざなっています。イギリスでファラデーが少年少女に実験を見せながらロウソクの話をしていた頃、日本は江戸時代末期で咸臨丸の太平洋横断などの史実があります。150年以上前に書かれた本が国や時代を超えて読み継がれ、今、日本の書店や図書館では予約待ちで、緊急重版したそうです。本校の司書にお願いして、学校図書館に近々本が届く予定です。私も、子ども向けに書かれた『ロウソクの科学』を書店で注文し、つい先日手に入れたところです。

将来につながる自分の可能性を広げるきっかけは、一人一人、いつの時期に、どこで、どんなときになど、様々だと思います。その時期が、小学生のときかもしれないし、中学生や高校生、大学生や社会人になってから、さらにはその後かもしれません。もちろん、本を読むことだけがきっかけになるのではなく、映像を見る、人とふれあう、話を聞く、実際に体験をするなど、それぞれのタイミングで選択肢が広がっていきます。

また、興味あるものに出会うことができれば、その好奇心が持続して、本気で追究する姿勢につながるかどうか大切なことだと思います。

子どもたちは、これからの出会いの中で多様な体験をして、感動を重ねて成長していくことでしょう。その過程で、自分の可能性の扉をいくつも開けながら、将来に向かって心豊かに歩いていくことを願っています。